

令和6年度 子育て・若者支援特別委員会行政視察報告

1. 視察期間 令和6年8月5日（月）～8月6日（火）

2. 出席者

(1) 委員

委員長 中嶋 恵 副委員長 本日 さよ

委員 石原 喬子、 拝野 健、 弓矢 潤、 木村佐知子、 田中 宏篤、  
青鹿 公男、 風澤 純子、 松尾 伸子、 高森喜美子、 秋間 洋

(2) 同行理事者

(仮称)北上野二丁目福祉施設整備担当課長 海野 和也

3. 視察先及び調査事項

(1) 大阪府茨木市 文化・子育て複合施設 おにクルについて

(2) 兵庫県明石市 あかしこども広場について

4. 調査の概要

別紙のとおり

【大阪府茨木市】

1. 市の概要

人 口 286,015人（令和6年4月30日現在）

面 積 76.49km<sup>2</sup>

主な特色

- ・大阪府の北部に位置し、京都府と接しており、西国街道が東西に貫き、大名などが参勤交代で宿泊した郡山宿本陣が現存している。
- ・工場や物流拠点が多く立地する産業都市であるが、JR・阪急・モノレールの3路線が通り、大阪駅、京都駅まで20分程度の距離にある住宅都市の側面も併せ持っている。

2. 調査事項

文化・子育て複合施設 おにクルについて

(1) 施設概要

開 設 令和5年11月26日

所 在 地 茨木市駅前三丁目9番45号

延床面積 19,715.22m<sup>2</sup>

階 数 地上7階

構 成 屋外…芝生広場

1階…多目的ホール、屋内こども広場 ほか

中2階…一時保育室、事務室 ほか

2階…こども支援センター、子育てフリースペース ほか

3階…大ホール（舞台・楽屋）、音楽スタジオ ほか

4階…大ホール（1階席・ホワイエ）

5階…大ホール（2階席）、図書館

6階…図書館

7階…市民活動センター、プラネタリウム ほか

運営方法 一部直営・一部委託・一部指定管理（全館管理運営は指定管理による）

(2) 経緯

ア.「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」策定（～平成29年）

平成27年に閉館した茨木市市民会館跡地エリアの活用に向けて、市民と市長が直接対話を行う「市民会館100人会議」等の実施を経て、平成29年に跡地エリア活用の基本構想を策定した。

基本構想では、「市民会館100人会議」等を踏まえて設定した「ホール」「憩い」「交流」「にぎわい」という4つのキーワードと、「ハレの特別な日」、「日常のいごちのよい場」という2つの視点、「子育て支援」や「中心市街地活性化」といった政策課題等を踏まえ、跡地エリアに導入する機能やその方向性、及びキーコンセプトを設定した。

【導入機能とその方向性】

①ホール機能「市民の“ハレの場”」

②憩い「サードプレイス」

③にぎわい・交流・中心市街地活性化「普段使いできる交流とにぎわいの空間」

④子育て支援「いばらき版ネウボラ」

【キーコンセプト】

「育てる広場」・・・その場所をどう使い、どう活動し、そしてどう変えていくかは、市民自身で考え、市民自身の手により、育てる広場として作り上げられていく。

イ. 「茨木市市民会館跡地エリア活用基本計画」策定（～平成30年）

基本構想の内容を具体化するため、市民とともに跡地エリアの使い方を考えるワークショップや、市民が実際に広場を使用して企画を行う「社会実験 I B A L A B」等の実施を経ながら、施設機能やゾーニング、管理運営等について検討を行い、平成30年に跡地エリア活用の基本計画を策定した。



社会実験（焚火、盆踊り）を行う様子

（茨木市資料より引用）

ウ. 名称決定・開設（～令和5年）

基本計画策定後、市民が実験的な取り組みを行う場として「I B A L A B@広場」を跡地エリアに整備し、新施設の運営等について検証した。

また、市民とともに施設の設計を考えるワークショップの実施等を踏まえ、施設のコンセプトを設定し、令和3年に建設工事を開始した。

その後、一般公募・市民投票を経て、名称を「おにクル」（※）に決定し、令和5年に開館。  
 ※市内の当時6歳の男の子が命名。茨木市観光協会の鬼のキャラクター「いばらき童子」にちなみ、「怖い鬼さんでも楽しそうであたくなっちゃうところ」という意味が込められている。

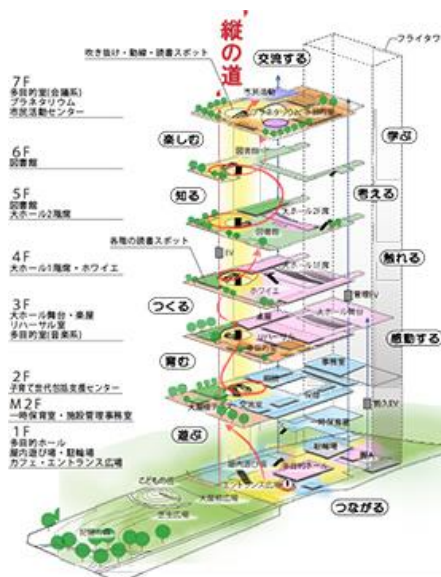
【施設のコンセプト】

・「日々何かが起こり、誰かと出会う」

7階建の各フロアを貫く吹き抜け「縦の道」を中心に、様々なプログラムが溶け合う、新しいタイプの公共施設

・「立体的な公園」

南北に連なる元茨木川緑地の緑や芝生広場と、施設の各階テラスや施設内の緑がつながり、建築とランドスケープが融合した立体的な公園に



（茨木市HPより引用）

(3) 子育て支援施設

ア. こども支援センター（市直営）

母子保健機能と児童福祉機能（子育て支援関係）を集約し、窓口を一本化するとともに、二つの機能の専門性を活かした業務と双方が連携した支援の実施が可能な体制を整えることで、改正児童福祉法の定める「こども家庭センター」として機能している。茨木市の子育て支援のハブとして、関係機関と連携しながら、地域全体での子育てを支援している。

「いばらき版ネウボラ+（プラス）」として、保健師や助産師、保育士など、多様な専門職員により、妊娠期から子育て期まで、ライフステージに寄り添った切れ目のない支援を実施している。

子育てカレンダー

届出や健康診査、講習会などの時期を年齢ごとに記載しています。お子さんの成長に合わせて、ご利用ください。

	妊娠中	赤ちゃん誕生	生後3~4か月	生後5~11か月頃	1歳頃	1歳6か月頃	2歳頃	3歳頃
産後のケア	妊娠室・母子健康手帳の交付 ▶ P48	出生届 ▶ P49 児童手当て ▶ P51 こども医療費の助成 ▶ P52						
健診	妊婦健診 ▶ P48 妊婦産科健康診査 ▶ P48	産婦健康診査 ▶ P50 乳児一般健康診査 ▶ P50	4か月児健康診査 ▶ P50	乳児後期健康診査 ▶ P50		1歳8か月児健康診査 ▶ P50	2歳3か月児産科健康診査 ▶ P50	3歳6か月児健康診査 ▶ P50
講習会・講座	パパ&ママクラス ▶ P53		離乳食講習会 ▶ P53 あかちゃんあそび ▶ P53		幼児食ばくばくクラス ▶ P53			
助産師・保健師による支援	妊娠前から子育て期までのワンストップ相談・支援(こども支援センター) ▶ P12 陣发型出産・子育て応援事業 ▶ P48 電話相談・面談相談・訪問相談等 ▶ P80		こAには赤ちゃん事業 ▶ P50					
産前・産後ホームヘルパー派遣事業	産前・産後ホームヘルパー派遣事業 ▶ P49							
多胎児お出かけサポート(外出支援)	多胎児お出かけサポート(外出支援) ▶ P49							
ピアメンター(多胎育児経験者の派遣)	ピアメンター(多胎育児経験者の派遣) ▶ P49							
妊産婦保健指導	妊産婦保健指導 ▶ P48							
新生児・産婦訪問指導	新生児・産婦訪問指導 ▶ P49							
低出生体重児訪問指導	低出生体重児訪問指導 ▶ P49				一時保育 ▶ P54~P56			
産後ケア事業(後泊型)	産後ケア事業(後泊型) ▶ P50							
子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ)	子育て短期支援事業(ショートステイ・トワイライトステイ) ▶ P57							
つどいの広場	つどいの広場 ▶ P34							
地域子育て支援センター	地域子育て支援センター ▶ P38							
出前版お楽しみ広場	出前版お楽しみ広場 ▶ P41							
市民プール	市民プール ▶ P42							
きたしんプラネタリウム	きたしんプラネタリウム ▶ P42							
子育てサロン	子育てサロン ▶ P43							
図書館	図書館 ▶ P44							

(茨木市資料より引用)

イ. 子育てフリースペース わっくる（市直営）

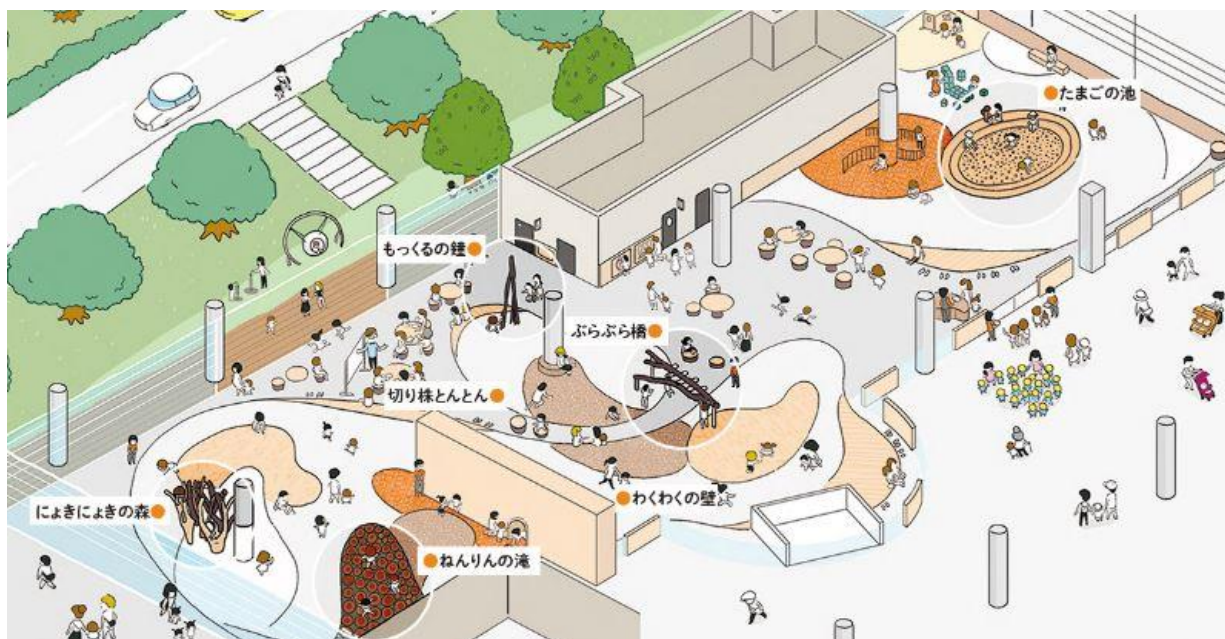
こども支援センターに隣接し、遊びや憩い、交流、活動など、用途に応じてフレキシブルに活用できる自由な空間となっている。おにクル内の図書館と協力し、子供と保護者が絵本を読みながらゆっくりと過ごす「絵本でほっこのり日」など、様々なイベントも企画されている。

ウ. 一時保育室（委託：株式会社明日香）

保護者の育児負担の軽減・社会参加を促し、子供の健やかな育成を図ることを目的とした施設。保護者が一時的に家庭での保育が困難になった際に子供を預かる「一時保育スマイル」と、おにクルで実施するイベントに保護者が参加する際に子供を預かる「おにクルイベント保育」を行っている。

エ. 屋内こども広場 まちなかの森 もっくる（指定管理：まち森A Jグループ）

茨木市の豊かな自然を屋内に再現し、雨の日でも外遊びが体験できる、まるで「まちの中の森」のような屋内の遊び場。樹木の自然のままの姿をできるだけ活かしたユニークな遊具で遊びながら、子供の運動機能や豊かな感性を育むことを目的としている。



まちなかの森 もっくる フロアマップ  
(まちなかの森 もっくるHPより引用)

#### (4) その他の主な施設

見やすく、優れた音響を実現しつつ、多彩な演出に応える高水準の可変舞台を備えた約1,200人収容可能の大ホール「ゴウダホール」といった文化施設や、おしゃべりも許容されるゆるやかな雰囲気、一人でも子供と一緒にでも気軽に利用できる「本の公園」のような図書館「おにクルぶっくぱーく」などがある。

### 3. 主な質疑応答

- (問) 跡地の活用検討にあたり「市民会館100人会議」を開催した際に、参加者から有意義な意見が多く出ていたようだが、話し合いが活発になる仕掛けはあったのか。
- (答) 世代や市民会館の利用実績の有無などで話し合いのグループ分けを行うとともに、事前に参加者へアンケートを実施し、会議の場でアイデアのイメージを共有できるような工夫をした。
- (問) 本区では、教育的な施策の大半は教育委員会の所掌となっているが、茨木市ではこども育成部内に幼児教育や保育に関する事務の担当課が含まれているのはなぜか。また、そうすることで得られる成果はあるか。
- (答) 茨木市では、施策に合わせるのではなく、サービスの対象に合わせて組織を構成しているため、子供を対象とするサービスは、こども育成部が所掌することになっている。また、成果としては、母子保健から発達支援、保育等に至るまでを一体的に所掌しているため、部内での連携が強くなったことが挙げられる。
- (問) 施設の管理運営は指定管理者によって行われており、その選定に市民の関与はなかったようだが、関与させるという発想はなかったのか。
- (答) 指定管理者の選定については、市民参加ということよりも専門性や公平性に重きを置いて行った。

#### 4. まとめ

市民会館に代わる新たなシンボルとして、令和5年11月26日に開館したおにクルであるが、その後約半年で来館者数100万人を突破するなど、早くもまちの賑わい創出に貢献している。こうした成果は、跡地エリアの活用検討初期から、市民を巻き込んだ議論を丁寧に重ねてきた結果だと言えよう。おにクルでは、ホール等を活用した市民のイベントが多く開催されるほか、実際に施設を見学すると、利用者が思い思いの場所・使い方で、自由に遊びや会話を楽しみながら憩いの空間を形成しており、まさに市民に育てられることで魅力を増していく施設であると感じた。

また、おにクルは、子育て支援機能として、こども支援センター等を有しているが、これらは、おにクル内のその他の施設と連携しながら、多様な子育て支援を実施している。来館者が様々なサービスを楽しみながら、「ついで」の感覚で気軽に子育てに関する相談を行える環境は、他の施設にはない大きな特徴の一つと言えるのではないだろうか。

本区では、現在、(仮称)北上野二丁目福祉施設の開設に向け建築設計を進めているが、子育て支援をはじめとした諸機能の運用について、区民等の意見も踏まえながら検討を進めているところである。市民の声を反映した多彩な機能を有し、ライフステージに応じた様々なサービスを提供するおにクルの在り方は、(仮称)北上野二丁目福祉施設の建築設計や運用を考えるうえで、大変参考となった。



視察の様子



茨木市議会議場にて

## 【兵庫県明石市】

### 1. 市の概要

人 口 306,912人（令和6年5月1日現在）

面 積 49.42km<sup>2</sup>

#### 主な特色

- ・兵庫県の南部にあり、神戸市の西に位置している。東経135度の日本標準時子午線上にあり、瀬戸内海に面し、明石海峡を挟んで淡路島を臨んでいる。
- ・阪神都市圏、播磨臨海地域、淡路・四国とを結ぶ陸海交通の要衝にあり、産業都市として、また、神戸市や大阪市のベッドタウンとしても発展し、人口は平成25年より再増加を続けている。

### 2. 調査事項

あかしこども広場について

#### （1）明石市の主な子育て支援施策

所得制限のない独自の5つの無料化をはじめ、妊娠期から中高生までのステージで切れ目のない様々な支援を実施することで、市民が安心して子育てができる「こどもを核としたまちづくり」を推進している。

#### 【5つの無料化】

##### ①こども医療費の無料化

子供世代が経済的な理由で病院に行くことをためらうことがないよう、こども医療費助成制度により医療費を無料化している。平成25年より15歳以下の子供を対象に開始し、令和3年からは18歳以下に対象を拡大している。

##### ②第2子以降の保育料の無料化

「こどもを安心して産み・育てられるまち」として、子育て世帯の経済的負担を軽減し、2人目を出産する後押しとなるよう、保育所や幼稚園等を利用する第2子以降の保育料を平成28年より無料化している。

##### ③0歳児見守り訪問「おむつ定期便」

0歳児養育家庭に毎月、子育て経験のある支援員がおむつなどの赤ちゃん用品を無料で宅配し、定期的に見守り等を行うことで、育児に関する不安や悩み、心配ごとなどの育児相談を行い、支援の必要な世帯の早期発見、早期支援につなげている。令和2年より事業を開始している。

##### ④中学校給食の無償化

子供の夢と心身の健やかな成長を社会全体で応援する取り組みの一環として、教育費の負担が大きい中学生のいる世帯について、経済的な負担を軽減し、子育て支援及び教育環境の充実を図る。令和2年より無償化している。

##### ⑤公共施設の入場料無料化

以下の公共施設については、対象ごとに入場料を無料化している。

- ・明石市立天文科学館（高校生以下）

- ・明石市立文化博物館（中学生以下）
- ・明石海浜プール（小学生以下※市民限定）
- ・親子交流スペース「ハレハレ」（小学生以下の児童とその保護者※市民限定）

(2) あかしこども広場の概要

開 設	平成29年1月27日（一部施設）、平成29年4月20日（全施設）
所 在 地	明石市大明石町一丁目6番1号 パピオスあかし5階
構 成	あかし子育て支援センター、親子交流スペース、明石市ファミリーサポートセンター、一時保育ルーム、貸室、中高生世代交流施設 ほか
運営方法	一部直営・一部委託



(明石市HPより引用)

(3) 経緯・目的

明石駅前再開発ビル「パピオスあかし」内の公共スペースの活用について、パブリックコメントや市長懇談会等により市民の意見・要望を集約した結果、子育て支援施設等を希望する意見が多かったことから、「こどもを核としたまちづくり」の方針のもと、妊娠期から中高生まで幅広い年齢の子育てをサポートする総合施設として設置された。

(4) 子育て支援施設

ア. あかし子育て支援センター（市直営）

地域の子育て家庭に対する育児支援を行うことを目的として、乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所として開設している。

① プレイルーム

小さな子供連れの親子がゆったりと一緒に遊ぶことができる。子育てに関する相談や子育て情報の提供、子育てサークルやボランティアを活用したイベント等も実施している。

② こども図書室

プレイルームと一体的に運用し、本を通じた親子の交流を図る場として開設している。主に未就学児とその保護者を対象とし、絵本や育児書等の子供と保護者向けの書籍を配置し、読み聞かせ会等を行うほか、図書の貸し出しも行っている。





プレイルームの様子

(明石市HPより引用)

イ. 親子交流スペース「ハレハレ」(委託:公益財団法人神戸YMCA)

ボーネルンド社の大型遊具を設置し、親子でふれあい、交流を深めながら体を使って遊ぶことができる施設。子供の健やかな育ちを願って、好奇心や興味を引き出す知的遊具等も備え付けている。また、乳幼児連れの方も安心して利用できるようクッションを敷き詰めたベビーコーナーも設置している。



ハレハレの様子

(明石市HPより引用)

ウ. 明石市ファミリーサポートセンター(再委託:生活協同組合コープこうべ)

地域において育児の援助を行いたい方(提供会員)と、育児の援助を受けたい方(依頼会員)により構成された会員相互間の援助活動を支援する施設。会員登録や会員相互間の連絡調整などを行っている。

エ. にこにこ保育ルーム(一時保育ルーム)(委託:公益財団法人神戸YMCA)

保護者の冠婚葬祭や傷病、育児疲れのリフレッシュなどの場合に、保育士資格を持った職員が子供を一時的に預かる施設。パピオスあかし内のあかし総合窓口やこども健康センター、子育て支援課への用務の際は、一定時間利用料金が免除される。



にこにこ保育ルームの様子

(明石市HPより引用)

#### (4) その他の主な施設

子供と保護者が一緒に工作やお絵描きなどを楽しむことができる「明石たこ大使さかなクンのギョギョ工作ルーム」や、音楽スタジオ等を備え中高生の様々な活動と健全な育成を支援する中高生世代交流施設「AKASHI ユーススペース」などがある。

### 3. 主な質疑応答

(問) 0歳児見守り訪問「おむつ定期便」について、配達者である支援員の募集や賃金の支払いはどのように行っているのか。また、支援員による相談とは別に定期的な相談を行う体制はあるのか。

(答) 事業の受託者である生活協同組合コープこうべが支援員の募集・雇用を行っている。また、支援員以外による相談は行っていないが、支援員から定期的に相談者の状況報告を受け、状況に応じて明石市の専門職員につなぐ等の対応をとっている。

(問) これまで全国に先駆けて様々な子育て支援施策に取り組んで来たが、近年では他自治体でも給食費無償化等の取り組みを開始しており、差がなくなってきているようだが、子育て支援の先進自治体として、今後どのように取り組んでいくのか。

(答) この場で具体的な方針を回答することは難しいが、今後も市民の意見をよく聞いて政策を考えていく。

(問) 子育て世代包括支援センターとは別の部署にあかし保健所が組織されているが、母子保健事業での連携において課題はないのか。

(答) 人事異動等による職員の関係部署での業務経験の蓄積などにより、双方の連携についての課題はないと考えている。

### 4. まとめ

明石市では、「こどもを核としたまちづくり」を掲げ、様々な施策に取り組んできた。具体的には、独自の5つの無料化や各ライフステージでの切れ目のないサポート、また、それらのサービスの提供を行う施設の運用が挙げられるが、そうした施設の一つに、あかしこども広場がある。

あかしこども広場は、幅広い年齢の子育てを支援するため、子育て世代のニーズを満たす様々な機能を有している。実際に見学すると、中心施設の一つであるあかし子育て支援センターでは、プレイルームで子供が遊ぶ傍ら、親同士が育児の悩みを相談し合う姿があり、親子や子供同士の交流の場としてだけではなく、子育て世代の育児不安を解消する場としても機能していると感じた。また、親子交流スペース「ハレハレ」では、乳幼児が楽しめる「ベビーゾーン」や小学生が

遊べる「アクティブゾーン」など、年齢に応じた多様なエリアが設定されているほか、近年人気の高いボーネルンド社の大型遊具が設置されている。同社の遊具を置く遊び場は、利用を有料とする場合が多い中で、同施設は、市民については無料で利用することができる。こうした運用は、子育て世代に寄り添った屋内遊び場の一つの在り方として、大変参考になった。

あかしこども広場の運用をはじめとする明石市の取り組みは、子育て世帯の流入を促し、11年連続で人口増加を達成するなど、大きな成果を上げていることから、本区としても学ぶべき点が多かった。しかしながら、給食費の無償化など、近年では明石市と同様の施策を行う自治体が増えてきており、差別化が難しくなっている。こうした中で、同市が今後どのような施策を展開していくのか、動向を注視していきたい。



視察の様子



親子交流スペース ハレハレ前にて